

「新任務付与反対」「戦地に送るな」と、 国会周辺に3800人

南スーダンに派遣される自衛隊部隊の壮行式が行われた19日、全国各地で「南スーダンに送るな」「戦争法廃止」と「19日行動」が行われました。国会周辺では、総がかり行動実行委員会が主催した集会には、3800人が参加しました。「自衛隊は戦地に行くな」と書いた横断幕を掲げ、「南スーダン派遣反対」などと声を張り上げました。

行動には、国会議員、学者、弁護士、ジャーナリスト、米退役軍人、市民団体の代表らがマイクで訴えました。米国の退役軍人は平和会のメンバーのロリー・ファニング氏は「敵と味方が入り交じり状況だった。現在の南スーダンと酷似している」と参戦したアフガニスタン戦争の経験を語り、「平和はとても大事なもの。アメリカのようにならないで」と語りました。

また、安保保障関連法に反対する学者の会の広渡清吾氏は、戦争法によって「戦後70年、憲法9条のもとで築き上げた国際的地位が崩壊してしまう」と指摘、「これまでの共闘に確信をもって安倍政権に代わる政権を展望しよう」と訴えました。

民進党の初鹿明博衆院議員、社民党の又市征治幹事長、共産党の小池晃書記局長らが参加。共産党の小池氏は、「自衛隊に新たな任務が付与されたことを断固糾弾する。戦争法は廃止しかない」と語り、「総選挙では野党の共闘で自公とその補完勢力を少数派に追い込む。そのためにも、市民の皆さんの後押しが必要です。ご一緒に頑張りましょう」と呼びかけました。



駆け付け警護付与部隊PKOへ 20日 南スーダン向け先発隊出発

陸上自衛隊青森駐屯地（青森市）で19日、南スーダンのPKOに11次隊として派遣され、戦争

法に基づく「駆け付け警護」などの新任務を担う陸上自衛隊第9師
行われました。

壮行式では、派遣部隊の隊長の田中仁朗一等陸佐が、出発準備完了を報告。稲田朋美防衛相が派遣隊員を前に、「自衛隊の国際平和協力の歴史の中で、新たな一歩となる」と訓示し、新任務について「万一の場合への備えとして、必要な任務と権限



を与えておく。現地の邦人にとっても、部隊にとっても、リスクを低減することにつながると考える」と語りました。南スーダン派遣部隊への訓示は一次隊の隊旗授与式を除き、二次隊以降は副大臣、政務官が行っており、防衛相が行うのは異例です。

終了後、田中隊長は記者団に「しっかり訓練してきたので、何の不安もない」と話しました。南スーダンの治安情勢については「衝突が起こっているのは承知しているが、現在ジュバは比較的平穏だと思う。情報を収集して安全確保に留意して活動したい」と述べました。

壮行式の会場には、300人の派遣される隊員の家族も出席。中には、小さな子どもも母親と参加し、会場には子どもの泣き声が響いたとの報道もあり、参加した家族と隊員の気持ちを考えさせられます。派遣部隊の早い撤収を求める声、戦争法廃止の声を広げたいものです。



20日、家族が見守る中、ジュバへ

20日、約350人の派遣隊員のうち先発隊約130人は、青森空港から、家族が見守る中、南スーダンの首都ジュバに向けて、出発しました。ジュバには21日に到着予定です。

派遣される部隊は8月25日～10月26日、関係法令や現地情勢などについて学び、9月14日から「駆け付け警護」と「宿営地の共同防衛」について訓練を受けました。南スーダンでは地方の情勢も流動的であり、活動

範囲は宿営地のあるジュバその周辺に限定するとしています。派遣期間は来年3月31日までです。また、18日に稲田防衛相は新任務を付与する命令を出しており、10次隊から11次隊に指揮権が移る12月12日から実施できる状態になります。

新任務「9条逸脱の恐れ」 米退役軍人が「駆け付け警護」に警鐘

日弁連主催の緊急シンポジウム「戦争のリアリティとは？～「駆け付け警護」「宿営地共同防衛」を前に 弁国の元軍人と考える～」が、17日に弁護士会館で開催されました。

はじめに、半田滋（東京新聞論説解説員）が基調講演を行いました。半田氏は10月24日に公開された「駆け付け警護」「宿営地の共同防衛」の訓練の様子を、映像で紹介しました。前日には稲田防衛相に武器商の場面が公開されましたが、当日は道路舗装や押しかけた住民との対応訓練の様子が公開されたが武器使用の場面は公開されませんでした。そして、半田氏は10月に取材した南スーダンの様子を語り、「要員の安全を確保した上で、意義のある活動が行えるのか」「PKO5原則を満たしているのか」と指摘し、「政府が考えるべきことは新任務の付与でなく、撤収ではないか」と語りました。

次に、半田氏と二人の米国退役軍人によるシンポジウムが開催されました。退役軍人の会「ベテランズ・フォー・ピース」（VFP）のメンバー二人が、アフガン戦争とイラク戦争に従軍した経験を語りました。また、南スーダンに派遣される陸上自衛隊への「駆け付け警護」など新任務付与が決まったことで、現地で起こり得る事態と憲法との関係にも触れ、警鐘を鳴らしました。

誰が敵か市民か見分けられぬ

ロリー・ファニングさんは、9・11のようなことが二度と起こらないよう、奉仕したく、02年2月に入隊。アフガニスタンに行ってみるとびっくりしたのは極度の貧困だ。人類史上最強の軍備を持つ米国が、地上で最も貧しい国の一つを攻めていた。「タリバンはどこだ？」と住民に聞き、通報した人にカネを渡して通報された家に踏み込み、従軍可能な年齢の男性は袋をかぶせ収容所に連れて行った。でも、タリバンとは無関係だったことがしょっちゅうあった。イラクやアフガンと、今

の南スーダンも同じ図式。誰が敵か市民か見分けられない。日本が自衛隊を派遣すれば、憲法九条が規定する自己防衛の趣旨を外れる。武器を持てば制圧しかできない。現地の人を求める食料やインフラ提供など、ほかにやれることはある。

自分自身がテロしていた

マイク・ヘインズさんは1994年に入隊し、2003年にイラクに攻め込んだときに海兵隊の特殊部隊にいた。目的は大量破壊兵器の発見と、テロと戦うこと。どちらもうそだった。バグダッドでは情報を基に家に押し入った。玄関に爆発物を仕掛け、爆発と同時に中に入ると、ほとんどは一般の家庭。年配の女性を壁に押し当てて脅したりした。六歳か七歳くらいの女の子が「ママ、ママ」と泣き叫んだ声が今でも耳から離れない。やっていることの恐ろしさを感じた。僕らは死と破壊をもたらし、大切な家族をばらばらにした。自分自身がテロをしていると自覚した。自分の手を他人の血で染めることは絶対にしてはならないことだ。

アメリカの240年間のうち93%が戦争の歴史であった。積極的平和主義は、肉を食べる菜食主義者のようだ。南スーダンに残る20人を守るために350人を派遣するのでなく、20人を引き上げさせればよいのではないか、等と語りました。

各地のとらえ

栃木 閣議決定に抗議 駆けつけ警護撤回を直ちに!

憲法共同センターとちぎは16日、宇都宮市の本庁交差点前で、南スーダンPKOで自衛隊に派遣の「駆けつけ警護」などの新任務を付与した安倍内閣の閣議決定に抗議するリレートークとスタンディングに取り組みました。

小林としはる県知事候補を先頭に奮闘する「みんなで県民の知事をつくる会」のメンバーも参加し、約20人が交差点でプラスターなどを掲げながら宣伝しました。

木塚孟安安保破棄県実行委員会事務局長は「自衛隊が海外での戦争に巻き込まれる危険性があります。憲法をじゅうりんするもので、ただちに撤回すべきです」と訴えました。

社民党県連合の宇賀神文雄幹事長(市議)もマイクを握り、陸上自衛隊宇都宮駐屯地の中央即応応援隊が派遣される危険性にふれ、「自衛隊員が殺されるような事態を止めよう」と呼びかけました。

大分 「若者を二度と再び戦場に送り出してはいけない」と署名

安倍政権の「駆けつけ警護」閣議決定に抗議して、大分市の「戦争法の廃止を求める市民の会」は15日の夕方、繁華街で緊急宣伝をしました。8人が「自衛隊を戦場に送るな」「閣議決定は撤回せよ」「戦争法は廃止」などと声をあげました。

平和委員会の遠入健夫さんは「南スーダンは国連が『大量虐殺』の可能性まで指摘する内戦状態の国。自衛隊員が『殺し・殺される』事態に巻き込まれる危険は明らかです。ともに声をあげ、閣議決定の撤回、戦争法の廃止を求めましょう」と呼びかけました。

大分市の女性は「戦争で肩を射抜かれ帰ってきた父の姿は忘れもしません。若者を二度と再び戦場に送り出してはいけない」と話し、署名しました。

衆議院憲法審査会傍聴者募集

11月24日(木)9時からの衆議院憲法審査会の傍聴をしましょう。希望者を総がかり行動実行委員会・憲法審査会PTで取りまとめます。氏名、職業を明記して22日(火)午後4時までに憲法会議に連絡ください。24日は8時40分衆議院議員面会所集合です。

憲法審査会終了後、12:15より、憲法審査会報告議面集会在衆議院議員面会所で開催されます。傍聴できない方も、ご参加ください。